

# 輝く 田底っ子

第37号

文責：校長 益永 一幸

## 田底小 スローガン

① 自分と周りの人を大切にしよう

② 自ら進んで学び、互いに高め合おう

## 不審者避難訓練を実施

11月9日（火）2校時、不審者侵入による避難訓練を実施しました。不審者避難訓練は、平成13年6月8日、大阪府池田市の池田小学校に出刃包丁を持った男性が突然侵入し、児童と教師23人の死傷者を出した事件をきっかけに、毎年全国の各学校で実効性のある訓練を実施しているものです。

今回も、熊本北合志警察署安全課スクールサポーター（鶴田様、秋山様）から丁寧な指導をいただきました。教師にとっては不審者の侵入防止・取り押さえる・通報等の対応を、子どもたちにとっては、自分及び仲間の命を守るための避難方法の確認ができました。訓練後には振り返りカードを書いて命を守る大切さを共有し合いました。（下記に3人分を紹介します）

- 不審者が来た時に、すぐに対応することができなかったので、もし不審者が来た時には、しゃべらず、すばやく行動したいです。（6年 寧々さん）
- 先生から不審者が来るとは聞いていたけど、本当に来たら何をすればいいかわからなくなった。もし変だと思ったら、きりをあけて声をかければいいと思いました。（4年 桜弥さん）
- 知らない人には、ぜったいついていけないことと、ほかにもいろいろなことをしれてよかったです。（1年 玄汰さん）



## あっ田底に！ステキな歴史 NO. 6

### 中城校 学童疎開

～比嘉清治さん（当時11歳）の証言記録～

中城国民学校の学童疎開集団は児童77名で、それに養護教員をふくむ引率教員3名、世話人2名、引率者代表の家族4名およびその他の家族4名の90名の人数でした。

私達は3人の先生方の引率で、昭和19年8月22日、中城を出発して、8月28日、那覇から、輸送船泰久丸にて鹿児島へ出港、8月31日鹿児島港着。そして、9月6日、鹿児島から熊本県鹿本郡山鹿町へ向かい翌7日到着しました。

山鹿町では、大和、菊池、昭和かぢ屋旅館と分散して暮らしていました。そこで約2か月半過ぎた頃、山鹿の町も危ないということで、11月20日、田底村に再疎開。元湯旅館。新湯旅館の2か所に分かれ、そこに3か月いて、今度は、旧田底青年学校の2階に全員共に暮らすことになりました。

この田底青年学校に来てからは、当時、中城国民学校の島袋正輝校長先生の家族も一緒になりました。なお、糸満の大城さん家族と上原さん家族も、私達と共に暮らすことになりました。

私達はそこで終戦を迎え、昭和21年10月22日、全員無事に帰郷することができました。それは、ひとえに、鹿本郡の皆々様方のおかげだと思います。特に、田底村の皆様にはお世話になりました。